和食給食のこれから

事業開始から3年 活動の幅が大きく広がる

和食給食の事業がスタートして、早くも3年が経ちました。事業開始時に使い出した「和食給食」という造語も、今では一般的な名称として、各所で見られるようになっています。

全国各地で和食給食を実施するにつれ、想いを共有する栄養教諭・学校栄養職員の方々が増え、今や事業の枠を超えて、自主的に和食給食に取り組む学校が見られるようになりました。

まずは身近な〝応援団〟をみつけ 地域を巻き込んで活動を

栄養教諭・学校栄養教員の皆さんは、日々様々な問題に取り組まれています。限られた予算や調理機材、人員の中でやりくりするだけでなく、毎日の献立立案、衛生管理、アレルギーに対応した調理、そして食育授業の実施に追われ、限界に達している方も多いと思います。そのため、本誌で書かれていることをすべて実施しようとすることは、非常に難しいのではないでしょうか。

ですから、まずは「和食給食を推進したい」と思った読み手の皆さん自身が、〝応援団〟を探すことから始めてみてはいかがでしょう。学校という枠から離れて見渡してみると、地元の和食料理人、生産者、食材卸業者、郷土料理講師など、周囲には食に関わる人たちがたくさんいるはずです。そうした地域の様々な関係者と一緒になって、児童生徒の食について考える、つまり、共に応援団として行動を起こす仲間を見つけることが、良いきっかけになると思います。

和食文化は、自然の恵みと地域の人々の手によって育まれてきました。地域の人々の関与なくして、和食文化を伝えることはできません。周囲の方々に、児童たちに和食文化を伝えたい思いや、学校給食でできること、できないことを伝え、理解してもらいましょう。

和食給食応援団は、あなたの近くにも、きっといることでしょう。ぜひ仲間をみつけ、様々な取組に挑戦していただければと思います。